



大島紬部（旧大島紬技術指導センター）を加えて新たに出発。

所長 神野 好孝

大島紬技術指導センターは、平成22年4月1日から工業技術センターに統合され、大島紬部として再編されました。大島紬技術指導センターは昭和2年3月に鹿児島県工業試験場大島支場として発足し、その後、県大島染織指導所、大島紬技術指導センターと改称しましたが、一貫して大島紬の図案、染色、機織に関する試験・研究・技術支援を行い、県内の本場大島紬産業の振興に努めて参りました。今般の統合で名称は変わりますが、大島紬産業に関する研究及び支援業務は従来と変わらず奄美市にて実施しますので、引き続きご利用いただきますようお願い申し上げます。

さて、一昨年の秋から続く不況は、政府の懸命な施策により回復傾向にありますが、本県の景況は、生産活動や個人消費の一部に持ち直しの動きがみられるものの、雇用情勢が低迷し、観光関連も低調に推移するなど、全体として厳しい状態が続いている状況であるとされております。

また2月下旬に鹿児島を訪問した山口日銀副総裁の記者会見を要約しますと、「輸出型製造業が相対的に少ない当地は、景気持ち直しの実感是全国に比べ遅れがちという印象がある。（中略）そうした厳しい状況にあっても当地の強みである、食と農を軸に地域を活性化していこうという非常に力強い動きが拡がりを見せている。行政による支援もあるが、農商工連携の取り組みは非常に時宜を得たものであり、それを地元金融機関が積極的に支援しているという話を聞いて大変心強く感じた。」というような印象を語っています。

このような厳しい景況を打破し、経済の回復活性化を目指して県としては、平成22年度商工労働水産部の主な事業として、自動車・電子・食品重点3業種の企業誘致促進事業の増額、新企業誘

致重点産業調査事業の新設、農商工等連携推進事業の新設、かごしま製造業振興対策事業の新設などによる製造業振興策のほか、雇用機会創出や離職者への職業訓練の事業拡大により雇用創出・確保を目指しています。

このような中で当センターの今年度の研究開発は主要研究事業として、シラスの利活用や木材の複合乾燥など8テーマを新たに実施するほか、大島紬分野では新カテゴリー商品のための染色技術、天然素材による絣織物、織物の多品種化、多用途化テキスタイルデザインの開発などを、また、一歩先の技術提供をめざす技術創出研究7テーマ、中小企業のニーズに応える技術高度化研究7テーマ、合計22テーマの研究を実施します。

技術支援は職員の専門的な知識を活用した技術相談・指導を実施し、製品開発支援や技術的課題の解決を図るほか、インターネットを活用した「技術相談110番」も実施しています。また、中小企業の技術者等を受け入れる技術指導や技術研究会、企業訪問を通じて、把握した業界や中小企業のニーズを迅速に研究テーマに反映させ、実用化・商品化を目指します。当センターが保有していない技術については、（財）かごしま産業支援センターの専門家派遣制度や鹿児島大学などと連携を図りながら、専門知識を有する外部専門家を活用して課題の解決を図り、利用者の要望に応えることにします。

当センターは「技術的拠りどころ」として役割を果たすとともに、かごしま産業支援センターや鹿児島大学・鹿児島高専、鹿児島県知的所有権センターとも連携しながら県内製造業の振興に努力いたしますので、皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。